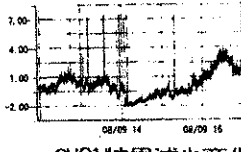
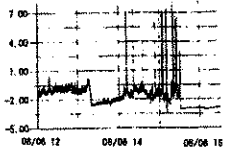
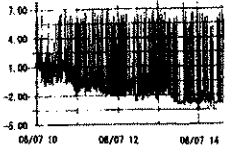


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 地殻大型地震の可能性推定前兆 続報



CH21 特異減少変化

【考え易い関係】 図-1)

- ◆既報告極大～終息 = 8月14日±
  - ◆初現6/22～極大7/10.5 = 8月14日±
  - ◆極大7/10.5～終息8/5.5 = 8月14日±
- 推定発生=8月14日±  
誤差を考慮し8月15日±1

【少々考え難い関係】 図-2)

- ※少々考え難いが、可能性として検討した関係。
  - ◆極大～終息関係
- |                              |                             |                             |
|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 極大認識                         | 終息認識                        | 発生                          |
| 2013. 12/13-2015. 4/23=10/11 | 2014. 2/27-2015. 5/12=10/10 | 2014. 2/27-2015. 5/12=10/10 |
| 2014. 4/24-2015. 5/28=10/12  | 2014. 4/24-2015. 5/28=10/12 | 2014. 4/24-2015. 5/28=10/12 |
| 2014. 6/7-2015. 6/08=10/11   | 2014. 6/7-2015. 6/08=10/11  | 2014. 6/7-2015. 6/08=10/11  |
| 2014. 8/18-2015. 8/05=10/12  | 2014. 8/18-2015. 8/05=10/12 | 2014. 8/18-2015. 8/05=10/12 |
- = 10月12日±

2008年7月より観測歴上最長継続する前兆群に関する続報です。現在の第7ステップが最終段階である可能性が示唆され、変化を観測しており

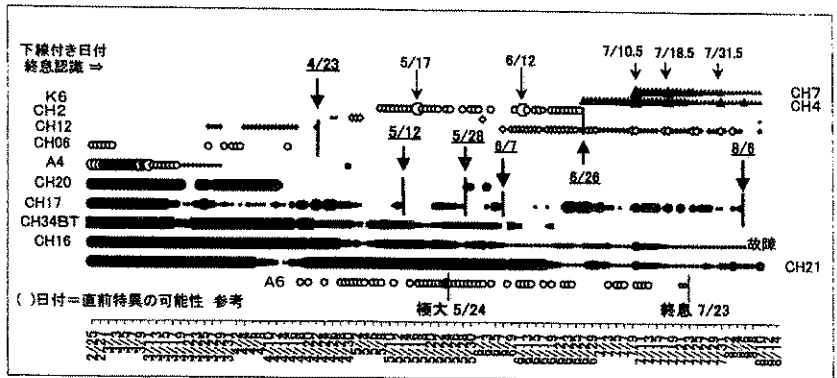
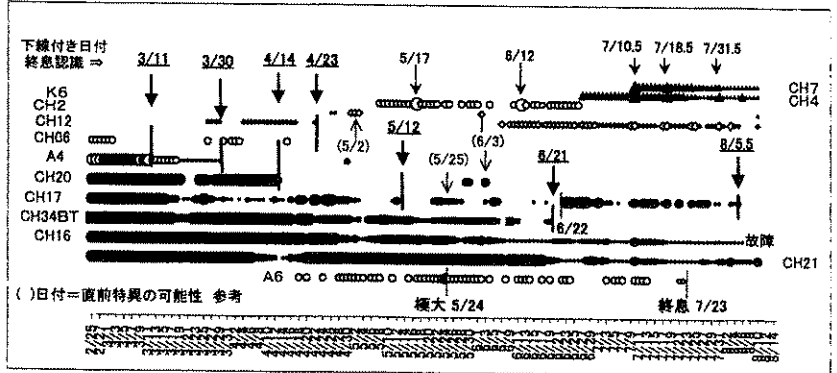
ります。上図-1) が現在考えやすい前兆関係です。既に報告の前兆極大～終息の関係認識が正しい場合8月14日±が示唆されます。8/7配信観測情報で8/13±を8/14±に修正報告済。

さらに直接波近似変動と同期して出現したCH17特異等の変化から同様に8月14日±も計算できます。継続していた前兆としてCH17とCH16, 21 特異がありますが、CH17は既に静穏化済。CH16は先日の落雷停電があった際に受信機が故障してしまい不明。残る明確な地震前兆であるCH21は左上に縮小して掲載のとおり、日々特異状態が小さく変化しています。仮に対応地震が8月14日発生である場合は、8月11日に前兆終息の可能性が示唆されます。前兆関係で計算される推定発生日の早いものは、最終段階前兆では弱く現れるため、若干減衰している場合もありますので、一番遅い時期が計算される値を重視するべきと考え、現状8月13以前は考え難くなります。昨夜

- ◆推定領域=右図A 大枠推定=大線領域内  
参考推定=斜線領域内
- ※影響局誤認の場合=右図B領域
- ◆推定規模=M7.8±0.5  
(M7.5~M7.9範囲内考えやすい)
- ◆推定時期=8月15日±1  
(8月13日以前は考えにくい)  
(最大誤差: 8月14日~17日)

※8月17日迄発生無く前兆継続の場合は10月の可能性が、8/15±に極大又は新規前兆が出現しないか、その後を観測し、続報で報告予定。

- ◇推定地震種=震源深さ30km以浅 浅い地殻地震
- ◇推定発生時刻=午前9時±2又は午後6時±2

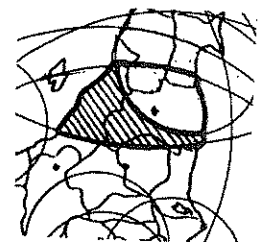


から本日若干前兆パル 上昇は7/10の直前特異の可能性も有。その場合は8月16日±が示唆されます。従って8月15日±1を現在の認識が正しい場合の推定時期と致します。その他の可能性についても検討してみました。色々検討してみました。色々と検討してみました。しかしながら終息変化がこじつけの可能性も否定できません。しかし、上図-2) の様な関係が成立すれば、10月の可能性も否定できません。しかしながら終息変化がこじつけの可能性があり、少々考え難い状況です。現状上図-1) の関係の方が考えやすい状況です。8月17日迄に発生がなく、前兆極大や新たな前兆出現があった場合、8月17日迄の発生が否定される根拠が明らかとなった場合等は、発生時期について再検討する必要がありますので続報で報告させていただきます。

※本続報は8/10 17:20配信実験観測情報の一部を転載させて戴きました。ご了承下さい。



A: 可能性が考えやすい推定領域



B: 影響局誤認の場合の推定領域

影響局・変動の向き誤認の場合の可能性が考えられる参考別推定領域